

セイヨウタンポポの葉（ロゼット）



アイヌ語名は（ ）内に

❧ 冬に枯れない葉



ペニバナイチヤクソウの葉。冬を越え、春まで残る

十勝の冬といえば白と黒のモノトーンです。かろうじてマツくらいが緑でしょうか。しかし、緑を保っている草だって、雪に隠されながら（保護されながら）あるのです。

コウゾリナのロゼット葉。
冬を越し、2年目に花が咲くミヤコザサ。枯れた周囲の白と
緑のコントラストが美しい

❧ 枯れてなお消えない草

オオヨモギ（ネヤ）は実（タネ）をつけたまま枯れて冬を迎えます。草の実や種は、冬を越す小鳥やネズミにとって大切な餌となります。

また枯れたまま春を迎えたヨシの茎は、タンチョウ（サロルンカムイ）が身を隠し巣を作るのに利用されます。



冬オオヨモギ（ネヤ）の実をついばむウソ



ヨシ原で営巣するタンチョウ（サロルンカムイ）

枯れても丈夫な茎が残る
オオイタドリ（クツタル）

❧ 冬の最後は春の訪れ



雪は残っているが、日に日に太陽の暖かさが増してくる3月、雪のすき間からフキノトウ（マカヨ）が見えてきます。いよいよ春の訪れです。

フキノトウ（マカヨ）

参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」 牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989
「北海道植物図譜」 滝田謙譲 自費出版 2001
「タンチョウ そのすべて」 正富宏之 北海道新聞社 2000

「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」 高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉 （財）日本野鳥の会 1982(1994増補版7刷)
「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995